

# 丸森山の立石

宮城県塩釜市 会員 浜田 善博

今回、会報へ投稿させて頂くのは、主として、宮城県伊具郡丸森町にある、町のシンボルとも言えるべき「立石」の存在についてです。ある方達は、ボルダータワーとも言っているようです。

地元では、誰も知らない人は居ない程、名の知れた伝説の巨石です。

不思議な巨石である事は確かなのですが、残念ながら、金華山の天柱石と同様、地元以外の人は、知る人のみぞ知る！程度の様で、イワクラの巨大さ、その価値のすばらしさについては、広く近隣に知れ渡っている・・・とは、言い難いものです。

事実、50kmしか離れていない同県塩釜市の私も全く知らず（世間の広さも知らない狭量さを棚に上げますが…）、たまたま、ネットに載っていた、宮城の山々の著名なハイキング山の「磐岳」「夫婦岩」等へ、巨石探しに登った際、案内図板に、「立石」の名が在り、名前からして、これは、確認しなければ！と思い、登ったものでした。



巨大に聳え立つイワクラ「立石」



向かって左が羽山、右が立石

提

麓に来て驚きました。遠くからも見えるのですが、麓から山を見上げると、巨大な「立石」が姿を見せているのです。ほんの短い斜面を登ると、直ぐ目の前に現れました。もう、感嘆です。

完全なイワクラではないですか！全国区の規模ではないですか！更に、周りを歩いて、その他の巨石が意味を持つものか、確認して回ります。東側を見ると、目の前に三角の山（後で知った羽山です。）が見えます。直ぐ、ここは拝殿、三角山（羽山）が本殿！などと短絡した発想が浮びます。

西側の峰沿いに少し足を延ばすと磐を利用して置かれた、羽山大権現の祠があり、脇には、ドルメン崩れのような石組があります。立石との絡みが考えられます。



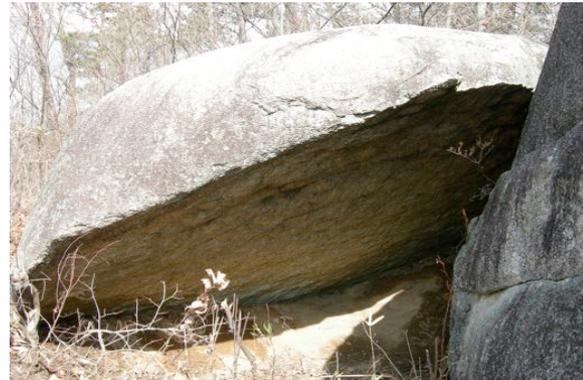
祀られている羽山大権現



東隣りのピラミッド山の羽山（丸森富士と



茨城県日立十王の堅破山の太刀割石と酷



ドルメンではないだろうか？

興奮冷めやらず、下山すると、その部落名が何と、飛ぶに絡む「羽入」（はにゆう）です。地図を見ると7km西には、「羽出（庭）」（はで）の部落名があります。

その後も、近辺の巨石の絡みや、地元の羽山信仰等の謎解きに着手しました。他にも確認すべき山に入り関連について調べましたが、なかなか思うような進展が得られません。

今年3月、山形県東根市の石崎山と立石山の会報投稿を通じて山形市在住の学会員、岡崎会員と知り合えたのをきっかけに、早速同行をお願いし、調査を開始いたしました。

岡崎氏は「立石」を見て、早速、直ぐにでも学会と鈴木先生にご連絡をした方がいいのでは！というご意見でした。

唯、情報が不足しておりましたので、調査してからと思ひ、今日に至った訳であります。

6月に入り、学会柳原様と鈴木先生に、立石の写真をお送り申し上げました。

翌日には早速のご連絡があり、広く学会会員に知らせるべく、確認調

査の結果を、次会会報への投稿を準備するようにとのご指示がございました。

以下、投稿させて頂く事になった経緯です。

## 巨大なイワクラ「立石」

昭和41年10月5日、宮城県丸森町字泉72-1山林内にある羽入の「立石」が、町の天然記念物（地質鉱物Ⅱ花崗岩）として指定されました。唯、ここは、現在も私有地です。

丸森町の中心街から東南東約2kmの所、羽入東の山の中腹峰上にあリ、柱上の花崗岩で出来た、高さ12.3m、周囲25.1m、上部は畳10畳敷き位と言われている、巨大なイワクラⅡ立石です。この立石を、人々が信仰の対象にしてきた事は間違いありません。

それを、裏づける様に、石の回りに弥生式土器の破片や、年代不詳の古銭貨幣が出土しているとの事ですから、それからも信仰の跡が伺えるものです。丸森町の助役さんや地元の方も、今から50年位前には、脇の松の太木から立石の上に乗れり移り遊んだものです！と語って呉れました。又、地元の方は、露出してゐる石の形は昔から変つてはいませんが、想像するに、埋もれていた巨石が、



立石山の、巨大なイワクラ・立石！

長い間の雨や雪で、少しづつ周りの土が流れ、露出して来たのでは！と思つ！と語つておりました。・・・が、果たして・・・逆ではないのだろうか！もつと巨大であった石が、長年の間段々埋もれて来たのではなかったか！です。下の埋もれている部分に付いては不明だそうです。

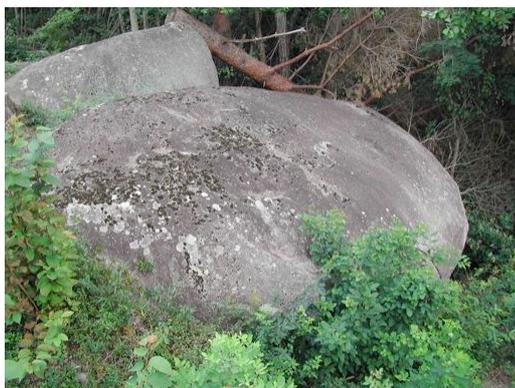
大イワクラ立石の直ぐ脇の斜めの巨石は、何の為だろうか！天文台に行つて調べましたが、専門官は、角度や方角から、「星座は関係なく、むしろ太陽崇拜の絡みの方がありそうだ！角度から言えば、多分、冬至に、落ち行く太陽を眺めて祈りを捧げていたのではないだろうか！もしかして、斜面でなく、上に向かう方向の先！に興味あるのでは？」と語つてくれました。



そして、周りに点在する巨石は何を意味するのか！



脇の斜めの巨石は何を指す



(昔から巨石の移動はなく其の儘の状態であるとの事)



★ 松掛の「的」がある山

立石を中心とした巨石群は、巨大ゾーンを形成し、語りかけている？

資料によりますと、大正15年刊の伊具郡誌には義家の敵将である安部貞任がこの石上に立ったと、記されており、又、安永の「風土記御用書出」にも、名石として書かれており、源（八幡太郎）義家が、部下の士気を高めようとして、この立石に登り、松掛の的をめぐけて弓を射ったと記されるなど、古くから注目は、されて来たものであるようです。

松掛の的石というのは、立石から6.5 km、北西330度にある山の巨岩と巨石がある所で、村名の由来にもなった所です。既述の、安永8年（1779年）伊達藩の国勢調査とも言うべき御用書出にもこの由来が記されているとの事です。写真は的石の巨石です。立石との絡みは伝説だけでしょうか。



伝説上、立石から射られた松掛の巨石「的石」・・・。

**★笠島の「立石」**

羽入の立石から、北西320度、約1.1km地点にある、地名になっている立石地区の笠島の「立石」です。羽入の立石と同様、これも巨大なイワクラに違いありません。高さ10m、周囲40m程の、この立石は、角田と白石間を結ぶ最短の道筋で、分かれ道には「右白石左大倉村」と刻まれた寛保3年（1743年）の道しるべが立っています。又、この立石は、権現堂山の麓に位置するところに在り、意味があります。



立石を横から見る。



立石地区の笠島「立石」



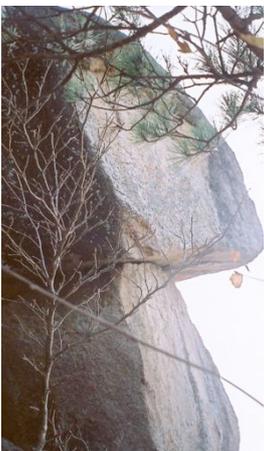
高さは10m、周囲40mほどもある。

立石の右横には上部が崩壊した部分が横たわっている。

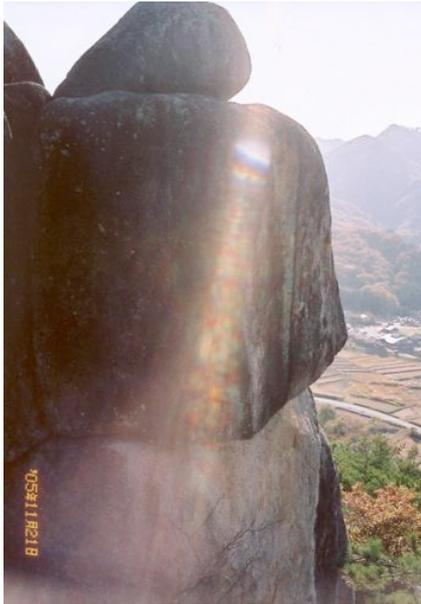
★東向  
の巨石  
羽入の  
立石の並



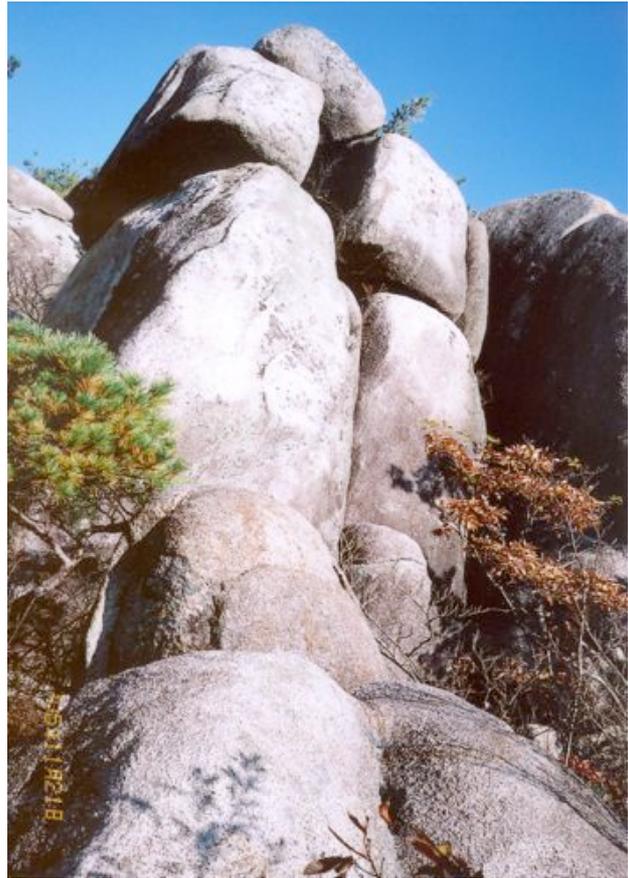
びで、南2、5kmの山（東向）の頂上付近に、巨石が点在します。東向は、通称、重箱山とか、大高松（山）と呼ばれるそうです。大分昔に、地元の所有者達は、課税されるのを嫌がり、所有権を放棄して、入会権のみを確保して官に移管した山であるが、見事な不思議な巨石なのです。自然に出来たものとは到底思えないのです。



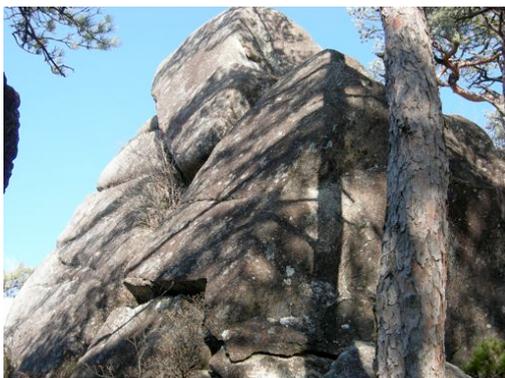
東向（通称、重箱山、又、大高松）の巨石



采木運搬の為、邪魔で上部が落ちてもこの通りの巨大さ、不思議！です。  
 だが、自然のなせる業でしょう！



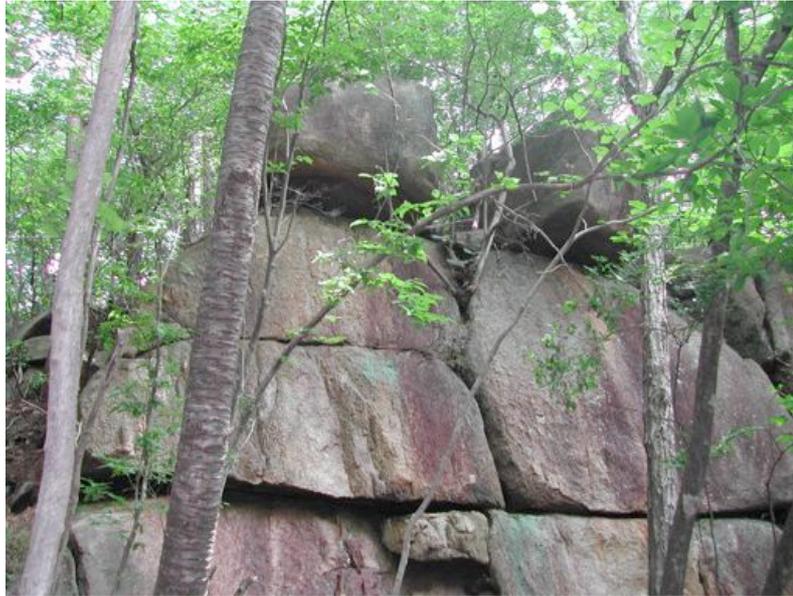
**磐岳のピラミッド & スフィンクス**  
 羽入の立石の南南西200度、6、5 km地点にあります。  
 水と緑と奇岩の織りなす自然博物館は、阿武隈溪谷県立自然公園の中にあります。  
 磐岳430 mです。超古代は、海底にあつて隆起したものと考えられています。  
 因みに、近くに、「鷲の平」と言う山があり、これに隣接する、福島県の霊峰「霊山」と地質が同じで、頂上には、岩に貝殻が付着していて通称、いぼ石と呼ばれている山があります。  
 さて磐岳には、山頂にかけて、自然が造ったピラミッドやスフィンクスと言うには疑問と思われる巨石があるのです。又、方位石とも思える石も存在します。  
 唯、ピラミッドとか、スフィンクスとかの見解は、のめり込む浜田会員だけで、岡崎会員は冷静沈着、且つ懐疑的で、そこまでの飛躍した考えには慎重です。



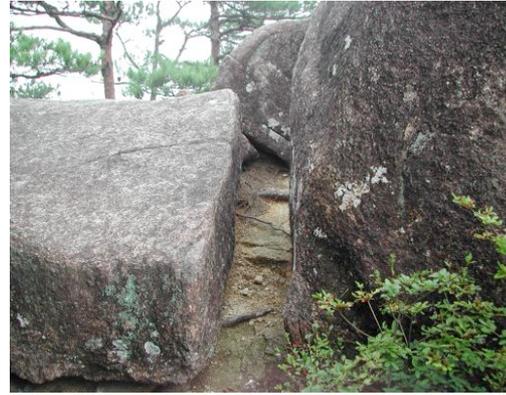
磐岳のピラミッド？



磐岳の不思議な雄姿（案内看板写真を写す。）



磐岳のピラミッドを守るスフィンクス？と言うと笑止でしょう



唯、磐岳には、方位石と思われる石があります。自然より人工によるもので

このように、羽入の立石を中心とし、伝説の石的、笠島の立石、東向巨石、岩立の組石などの巨石群はゾーンを形成し、我々に、何かを訴え掛けて来ているのではないのでしょうか！

伝説は事実の投影ではない  
でしょうか！

### ★「羽山」は信仰の山だけ か？

丸森に「羽山」と名が付く山が1  
箇所もあるといえます。

ハヤマとは、羽山、端山、早馬、麓  
山、葉山、飛山などのハヤマがあり、  
奥山に対する端つこの山の意味であ  
ると言われています。と言う事は、  
里に近い山、裏山になるわけです。  
古代に何かが飛んできて…その謂れ  
が羽山と言う様になった…と言う事  
とは、別の違う一面があります。信  
仰です。

この丸森のハヤマは、全てが羽山  
です。作物神としての羽山信仰から  
来ているものが多くと考えられてお  
ります。

地元の古老に尋ねて教えて貰いま  
したが、人は死んで霊となり、3年  
の間は家の周りにて家を守り、3  
年過ぎると羽山に水路が曲がっ  
ると霊界に上る！と言われているそ

きた石が川に刺さり

うです。

従って、部落を見下ろす所に、羽  
山があり、夫々の部落に近いところ  
の羽山が自分達の行く羽山である所  
からの信仰の為と言われている山な  
のだそうですが、ただ全部がそうだ  
と言い切れない山も存在するものと  
思われます。

### ★石羽街道

東向（重箱山）の道路付近から、  
県道十文字に至る細い道路がありま  
す。石羽街道と言います。そこに古  
石碑が並んでいます。石碑は墓では  
なく全部が祈禱碑であるとの事でした。

丸森にしかない一代塔5基、庚申  
塔、足尾大権現、など34も並んで  
います。

ほんとに信仰の厚い土地柄である  
様です。かつて口伝されて来て、信  
仰に走る原因となった出来事か、何  
かがあったのではないか。立石にま  
つわるほんとの出来事か、「石羽」の  
由来に起因するのではないかと思  
います。

足尾権現は、お伊勢参りや月山詣

に行く為途中でくじけて、戻る事  
も出来ない、命がけのイベントであ  
ったため、足の怪我が無きように願  
を掛ける為、分詞されたと言います。  
又、出かける為、妻や、家族とも接  
触を立ち、ここのお不動尊に3日間  
籠り、自炊して過し3日目の早朝、  
誰にも見られないように出掛けたと  
言います。

古老に、何故、石羽街道と言うか  
尋ねましたら、言い伝えでは、大  
石が飛んで来て、川に刺さり、川  
水が堰き止められて、水路が曲が  
り、そこが「曲がっ淵」となった  
為、この街道を石羽街道と言う事  
になったとの事でした。



★多い巨石(石、岩)伝説

丸森町には巨石(または石)に関する伝説が数多くあります。勿論何処の町にも少なからずあるでしょうが、町あげて取り組む姿勢や、その町の口伝や文献がしっかりしているからに他ならないのではないのでしょうか。伝説は意外に実際にあつたこととの投影である事が多いものと言われます。争いの勝敗は、歴史の、伝説の中身を変えたりして行きます。勝者の歴史は文献として脚色されて残り、敗者の歴史は口伝されて残ります。

丸森の石に関する伝説を項目だけです列挙します。

- ◎ 弁慶が馬術を試した時の蹄の跡「馬蹄石」
- ◎ 羽山と立石の大石同士の猛喧嘩
- ◎ 慈覚大師勧請の不動尊と神滝(大岩)
- ◎ 神明社、ご神体は光を放つ夫婦石
- ◎ 魔除け石が守る袖五郎屋敷の

神楽石

- ◎ 筆甫の武士淵と鎧石
- ◎ 宮城の遠野、神々が住む磐岳の天狗
- ◎ 鷲の平のいぼ石巨岩
- ◎ 手長足長神の鹿狼山の硯石
- ◎ 弁慶の入道崎の足跡
- ◎ 水中の大石、姥石
- ◎ 八幡太郎義家が的にした松掛の石的
- ◎ いかさまばくちの制裁で女が石と化す、ばくち石とゲエル石
- ◎ 館矢間地区の坪石
- ◎ 大猪退治の由来、皮張石と砥石
- ◎ 悲恋物語大岩の二又石(流れ石)
- ◎ 頼朝も驚いた合図の山、旗立て石
- ◎ 切付けられて泣き止んだ大石、ホイホイ石
- ◎ にわか堰、潜り岩と猿ばね石
- ◎ 諏訪大明神迎えの牛石……………
- ◎ ………………などです。

伝説と、UFUO(?)との繋がり

巨石に係る伝説も、羽と言う言葉に係わる地名などについても、それはそれで理由があり、単なる空想でなく、かつて、何か口伝される何事かがあつたと推定されるのです。

◎ 羽山と立石には、次のような伝説があります。

「…羽山と立石は大空を貫くほどの大石であつた。お互いに勢力争いを始め、ついには火達磨の大喧嘩になつてしまつた。火花を散らす様は、遠くの里から見ても夜でも昼のように明るくまるで、雷が鳴つてるように凄かつたと言う。ついに、羽山の方が半分位飛ばされてしまつた。

羽山の大石は怒り、火の玉となつて立石に体当たりをした為、立石の半分は東の方を削り取られ、山の下へ飛んでいった。…」

巨岩巨石は信仰の対象とされていたので、立石信仰と羽山信仰の氏子、信仰圏の争いの投影と見るよう

すが、この中身が、単なる勢力争いの口伝でしょうか!

◎ 羽山、本当は鎌倉山という山に祀られている、羽山神についての言い伝えがあります。「…金持ちの家に、働きの飯炊き女がいた。大凶作になつた時、死者が多数出た。

その時、飯炊き女が、日ごろから自分が蓄えていた米、麦等を村の人達に上げてくださいと差し出した。

多くの村人が飢えをしのぐことが出来た。飯炊き女は、自分の分まで与えたので、身体が弱り死んでしまつた。この時、遠くの方から、白い雲が下りてきて、飯炊き女を乗せて、南の方へ飛んでいった。村の人が追いかけて行くと、鎌倉山に、その雲が下りたので、この山を作物の神、羽山様として祀るようになったと言う。」

◎ 大内地区の東方に、三角の山容が素晴らしい鹿狼山があります。「…海で死んだ人の靈魂が火の玉となつて山頂に集まると言われ、その火の玉を “モウレン” と呼んでゐる。…」

◎ 更に、阿武隈川猿跳ね石付近の

大巻淀の中に、夜になると光を放つ物体があり、拾い上げて川原に立てて置いた所、同じ場所で、又光るものがあり、潜ってみると同じような石があった。これを夫婦神として、

神明社に祀った。神明者は一般に伊勢神宮の事ですが、各地の神明社に伊勢の神霊が光物になってきたので祀った！と言う飛び神明の伝説があるようですが、伊勢の宣伝のような気もします。ただ光る物体はほんともかもしれません。

等、このように、丸森には、火花を散らすとか、昼のように明るいとか、雷が鳴ってるように凄かったとか、雲に載せて飛んだとか、火の玉が山頂に集まる：又、石羽街道に石が飛んで川を堰き止めたとか、光とか、飛んでいく話とかが数多くあります。このような伝説は、 実際、例えば大昔、立石山に光る輝く物体（UFO？）が立石に飛んできて、それに遭遇し、目撃した人達が、何代も何代も語り継ぎ、それが残った事の投影かもしれません。因みに、UFOが頻繁に目撃されている福島

県飯野町の千貫森付近も、ここから、眼と鼻の先、僅か、35kmしか離れていないのです。

## 最後に

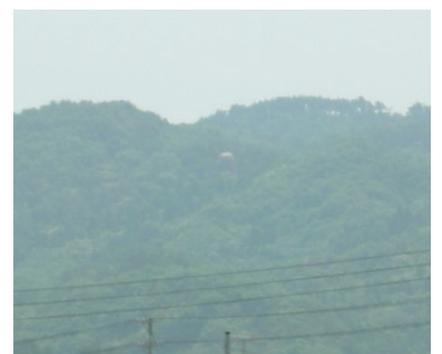
今回は主として、立石の提案になつてしまいました。現時点では、まだまだ調査が行き届かず、体系的な纏めが出来ていませんので、今後確かなものにして行かなければならぬと痛感している所でございます。又、文中触れませんでしたけれども、神社の類でも、延喜式、且つ、陸奥国100座にあり、その延喜よりもずつと遡ると思われる時代の鳥屋嶺神社（とやのみね＝焼失後再建）に、「鵜草草不台命」（ウガヤフキアエズノミコト＝神武天皇？）が主祭神として祀られ、ヘブライ人？の猿田彦も祀られています。

更に、この神社の南側に、立石が直ぐ正面に見えるのは、立石が、往古より、信仰の対象であったと思われる事も確認できました。



丸森町助役の話でも、町では、石をテーマとした文化の掘り起こしの再評価を探っており、観光資源の活用を図っている所であるとの事です。

又、こうした角度からの巨石へのアプローチは興味のある話であり、存在と保存の重さを考え、更に観光



でした。

の事  
と共  
存さ  
せて  
行け  
れば  
…と

学会会員の皆様には是非、実際に、ご覧頂き、ご忌憚のないご助言やご意見等をいただき、我々提案者としても、方向性を見出しながら、鋭意、進めて参りたいと思っております。

添付資料…

位置図「立石（石配置図概略）、  
的 石、笠島立石、磐岳、東向、石  
羽街道：縄文遺跡位置」  
参考引用文献…（伝説他について  
は、丸森町文化財保護委員会、丸  
森町文化財友の会、共著「ふるさ  
との伝説」等によります。）

了